



わが家の家族 もらつてきた子犬

星野ミヨノさん(砂押2・主婦・59歳)

三人娘を嫁がせてしまつて、最近ちよつぱり寂しさと暇を持て余している私。先日、長男が勤め先から電話で「先輩の家で子犬が生まれたので、一匹もらうことにしたからね」と言ってきた。「そうか、楽しみにしているよ」と言つて電話を切った。夕方、仕事から帰ってきた夫にその話をしたら「嫁さんでも連れてくればいいのに」とちよつぱり不満げな顔。でも晩酌が入つたら「どんな犬かなあ」といつ連れてくるのかなあ」と待ち遠しそうな態度。

市民談話室

5月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考へていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 ☎373-2111(☎333)です。



よみがえれ! 婦人会 部落の役に立つことを

西山久子さん(妻湯1・会社員・42歳)

「まあ、久しぶりね!」そんなあいさつで、婦人たちが寒い夜集落センターに集まつてきました。婦人会活動が低迷しつつある中、部落長さんの協力により、この度妻湯第一婦人会が発足したのです。(しかし、すんなりと、ここまでできたわけではありません) 何か部落の役に立つことを、というので、まず集落センターの管理とごみ集積場の管理をするつもりになりました。発足した翌日、まずセンターの大掃除



人はだれでも老いる 自分と上手に付き合つて

中村りう子(中山・主婦・54歳)

月日のたつのは早いものです。ひびきを傷めて一年が過ぎようとしています。あまり大病もしていない私でしたが、ある日、左のひざが痛くなり、お医者さんに注

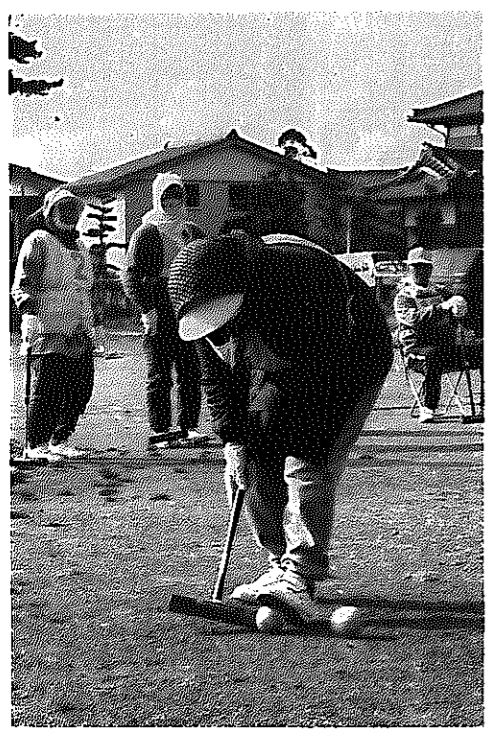
き、かわいくてたまらない。早速名前を付けようというところになった。ポチがいいか、チロがいいか。長男はサブローにするという。私は「呼びにくい



ゲートボールは 老人の遊びではない

栗賀俊雄さん(上浦・無職・72歳)

ゲートボールは体、頭、技術の運動です。大会においては敵味方に別れての対戦であることは皆様ご承知のとおり。味方の何番のボールはどこにいたか、敵の何番のボールはどこにいたか、常に頭の中に置かなければなりません。 また、選手の皆さんには十秒タイムという規則がありますので、すべての行動は敏速にしなければなりません。足腰の不自由な人でも一生懸命に走ることで、何よりの運動になるのです。対戦の場合は赤チーム五人、白チーム五人で戦います。勝利を得るために一丸となつて



戦うことにより、チーム全員が一心同体になり、立派な友達(戦友)ができるのです。 ゲートボールをまだやったことがないという人は、どうか仲間に入ってみてください。決してゲートボールは老人の遊びではありません。あくまでも健康のためです。 お勤めの若い人たちは「俺はまだまだ」とお思いでしょう。しかし、丈夫な体、体力のあるときから健康づくりに留意されて、一週間に一度でも参加されてはいいかがでしょうか。全身を動かす機会は少ないものです。体のことを思い、十分に走り回る

こともよいと思います。また農作業で一日中足腰を曲げての仕事の後、全身を伸ばすこともよいと思います。ゲートボールはだれでも楽しめる、そして奥が深いスポーツです。 皆様一人ひとりがスポーツに親しむことにより、健康で明るい白根市を築きましょう。



厳しい留学条件 身近な国際交流を

山崎スズ子さん(桜町1・洋裁講師)

「芸は身を助ける」とのこと、自分の好きなものを身に着けておきなさい」と、亡き母が口癖のように言っておりました。そのせいか、私は洋裁の道に進み、多くの人々と接することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。 今の世の中は、十年一昔どころか五年一昔といわれるように、変わり様が早くなってきました。つたないながら、私の携わってきたファッション界も、ついこの間まではパリ、ミラノ、ヨーロッパなど、外国一辺倒でした。しかし現在では、日本も世界の注目を集めるようになり、外国から日本に留学を希望する人も多くなってきました。 昨年



高井具野で

市民文芸

俳句

吾の折りし針の数多や針記る 樋口 トシ
一切の火の気を絶らして紙を漉く 公条 雪夫
母そはのつくるひものや春を待つ 安沢 飛浪
歌乗せてお座敷列車冬野ゆく 知野信一郎
人形の服着せ替へて春を待つ 和泉 伸子
寒明けも近しと妻を励ましぬ 猪股 南魚
病院の前の花屋も日脚伸ぶ 五十嵐寛吾
鴨小屋の銃口空を向きふたり 木村 トリ
陶芸の轆轤快調日脚伸ぶ 細貝 淡子
しあはせの月日記さん日記買ふ 山口 初野
(以上大風念)
雪折れの梅の小枝にも花開く 玉木 長吉
短歌
吾が青春かへらぬものを年毎に 小出よしの
花咲き実る庭の梅の木 小出よしの
雑草に埋れて咲く一輪の クロッカスを上げ小鉢に移す 中村 京
いつの日か木の葉の如く散り

逆けば掃き寄せられし仏の籍に 長谷川久二
其の昔感激に立哨る二重橋 皇居訪れ当時偲ぶも 小出熊四郎
川柳
支持率を妻と分け合うまあるい灯 今井 七郎
効いている薬が増えていく不思議 織田 福治
隅っこが好きな女のセレナーデ 織田 セツ
学歴もないが汚職も縁がない 後藤マサノ
故郷の川に詠りの音がする 佐藤トミノ
事故死だど知って秋花の謎が解け 佐藤 ヨキ
春の呆け封じに一鉢木瓜を買う 高橋祐四雄
モナリザの微笑の裏は解けぬ謎 竹石 甚五
氾濫の川の歴史を語る蔵 田村 恒夫
若貴に甘茶が苦い花まつり 中村 尚治
ノルマ負う背広が影を曳いて去り 西条 ムラ
二十四の瞳も皎に肝冷やす 早川 英男
身に凝り池埋め鯉に暇を出す 山岡 フミ
謎めいたカルテで揺れる心電図 吉川 彰
街中で俺のそっくりさんに逢う 米野 光雄
俺の金聞きながら食う手弁当 大井 眞雄